

# 1. 災害を知る

## 1-1 浸水ハザードマップについて

豊中市浸水ハザードマップは、住民等の皆様に本市で想定される風水害を知っていただき、災害時に被害が軽減することを目的に作成しております。

本市に影響のある河川の洪水にかかる浸水想定区域について、従来の計画規模（おおむね200年に一度の降雨量）から、想定し得る最大規模（1,000年に一度を上回る降雨量）の区域に拡大されたことを受け、最新の水害リスクをふまえたハザードマップを新たに作成しました。

また、内水氾濫についても近年の局地的な大雨による被害を考慮し、想定し得る最大規模の降雨による浸水想定を行っております。

地図面には、内水氾濫と洪水による浸水区域・浸水深・指定緊急避難場所等を掲載し、学習面には、「水害に備えた事前の心構え」、ご自身の行動を考えていただく「避難行動判定フロー」や「マイ・タイムライン」、「避難時の心得」と風水害に備えるための情報を掲載しております。

日頃から、本ハザードマップを活用して、家族やご近所の方と話し合い、緊急時にどうすればよいかを確認しましょう。浸水が想定される区域は、雨の降り方や状況によりハザードマップの想定通りに浸水するとは限りません。大雨の際には各機関からの情報収集に努め、早めの避難行動を心掛けてください。

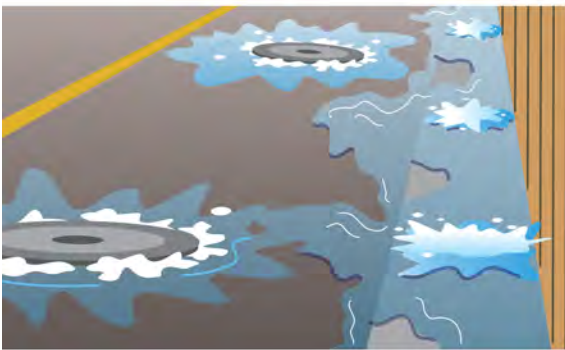
## 目次

1. 災害を知る	1-1 浸水ハザードマップについて	P.1
	1-2 水害発生メカニズム	P.2
	1-3 過去の水害	P.2
	1-4 浸水想定区域図について	P.3
	1-5 内水浸水想定区域図（全域図）	P.4
	1-6 各河川の洪水浸水想定区域図及び浸水継続時間	P.5～P.16
2. 災害に備える	2-1 水害に備えた事前の心構え	P.17～P.18
	2-2 避難行動判定フロー	P.19
	2-3 マイ・タイムライン	P.20
	2-4 避難訓練の実施について	P.21
	2-5 他のハザードマップも確認しましょう	P.21
	2-6 排水ポンプ場の役割	P.22
	2-7 地下空間の危険性	P.22
3. 大雨時のとるべき行動	3-1 警戒レベルと災害時のとるべき行動	P.23
	3-2 避難時の心得	P.24
	3-3 要配慮者への支援	P.25
4. 浸水ハザードマップ	4-1 ハザードマップの見方	P.26
	4-2 内水浸水想定区域図・洪水浸水想定区域図（詳細図）	P.27～P.94
	4-3 津波浸水想定区域図	P.95
	4-4 避難施設について	P.95～P.100
裏表紙	・ 情報の入手先	
	・ 防災関連機関	
	・ 災害用伝言ダイヤル	

## 1-2 水害発生メカニズム

大雨や台風により発生する水害は、身近な水路や下水道があふれる「内水氾濫」や、河川の決壊や氾濫によって発生する「外水氾濫」の2種類が考えられます。台風や前線等で大雨が降り続けると、内水氾濫と洪水（外水氾濫）が同時に起こる可能性もあり大変危険です。大雨の時に、自分や家族がどのような行動を取るべきか、考えておく必要があります。

内水氾濫



降った雨をスムーズに河川へ排水しきれなくなって、下水道や水路などから水があふれることです。都市部での被害が増えています。

洪水（外水氾濫）



河川水位の上昇や、堤防の決壊によって、河川から水があふれることです。外水氾濫は、家屋の倒壊や流出など、大規模な被害を引き起こすことがあります。

## 1-3 過去の水害

### 昭和42年7月8～9日の豪雨

台風から変わった低気圧が梅雨前線を刺激し豪雨をもたらし、大阪国際空港では最大時間雨量56.5mm、日雨量251mmを記録しました。

本市では広い範囲で床上・床下浸水に見舞われ、千里川では堤防が決壊・崩壊し、天竺川でも堤防から越水しました。

人的被害	重傷	5人
	軽傷	171人
住宅被害	全壊	13戸
	流失	12戸
	半壊	41戸



### 平成6年9月6～7日の豪雨

市内の中北部を中心に豪雨がありました。桜井谷ポンプ場では、最大時間雨量94.5mm、総雨量295.5mmを記録しました。限定された範囲に極めて多量の降雨がある典型的な局地豪雨で、市の中北部を中心に床上・床下浸水に見舞われました。

半焼(落雷)	1世帯
床上浸水	623世帯
床下浸水	1,629世帯



### 平成18年8月22日大阪府北部豪雨災害

局地的に本市の中西部を中心に利倉、原田地域や市役所周辺地域で1時間雨量100mm前後の降雨量があり、下水道施設の排水能力をはるかに超える集中豪雨となりました。このため、道路冠水や床上・床下浸水に見舞われるなど、多くの被害が出ました。

床上浸水	135世帯
床下浸水	263世帯

